

# ウェブ・アルバム my Pictoretown 入門

2012-9-27

今回のテーマは、my Pictoretown というウェブ・アルバムで、パソコン初心者にも馴染みやすいウェブ・アルバムです。

サイトの操作説明も行き届いています。(？ ヘルプをお読み下さい)

## <ウェブアルバムとは>

インターネット上に用意された自分専用のホームページに写真を保存するサービス。

## <ウェブアルバムの利点>

☆共有 家族や友人に写真を見せる。(メールのほかブログやホームページでも可能)

☆大量の写真データの受け渡し。

☆保管場所として利用(パソコンの外のバックアップ先として注目されている)

## <my Pictoretown の概要>

1 友人知人に写真を送るには、電子メールにファイルを添付すればいいのは皆様ご存知のことでしょう。

しかし、最近のデジカメは1000万画素1200万画素と大変データが大きくなり、写真を多数送ると、メール容量オーバーでメール送信できなかつたり、相手に迷惑がかかることがあります。

友人知人に写真を送るとき、ウェブ・アルバムを利用して、対象の写真のみを共有としてメールで送れば、軽いデータで送れますので相手のパソコンに負担が少なくてすみます。

2. my Pictoretown というウェブ・アルバムは、ニコンがインターネットで提供する画像共有・保存サービスです。

このサービスでは、ニコンがインターネットを通じて自分専用の写真専用クラウドストレージ(インターネット上の保管場所)を提供、ストレージに保存された写真や動画のメールでの紹介など共有はもちろん、ブログやFacebookなどで写真の公開が可能です。

#### 〈my Picturetownの特徴〉

- A. 無料で2GBの大容量のストレージが利用できる。
- B. 無料で利用する場合、一年に一度利用(ログイン)すれば、利用資格が維持でき、利用資格の維持条件が緩やか。 利用資格維持の観点からは、有料で使うのも一法です。
- C. 写真は縮小=リサイズすることなくオリジナルファイルのままストレージに保存できるので、写真のバックアップ先としても最適。

写真のアップロードは迅速なので、CDやDVDへの写真データ転送より楽です。

写真等のデータを貯めこまない方がパソコンの故障も減ります。

D. ニコン以外のメーカーのカメラの利用者でも使えます。誰でも使えます。

- 3. 蛇足ですが、ウェブ・アルバムは複数使うことをおすすめします。

ウェブ・アルバムは便利ですが、高速処理なので、操作ミスで一瞬にして写真を失くすリスクがあります。

無料で使っていると、サービス停止の危険があります。

ウェブ・アルバム選択の大事なポイントは、元の写真の圧縮方法の標準がいかに設定されているかです。(写真の収録枚数を増やすために、写真を自動的に縮小する標準設定のウェブ・アルバムが多い点にご留意下さい)

## <ウェブアルバムを利用する流れ>

会員登録(初回のみ)

<http://mypicturetown.com/>



専用ページにログイン



写真の転送(アップロード)



ウェブアルバムに写真を掲載

\* my Picturetown を使用するには、パソコンにAdobe Flash Player がインストールされている必要があります。

Adobe Flash Player は更新が多いですが、瞬時に終わりますので、マメに更新して下さい。

## <写真のアップロード>

写真をアップロードすると「全画像」に収録される。

my Picturetown Uploaderを使うと便利(ソフト導入が必要ですが、導入は簡単)

複数の画像をドラッグ&ドロップ操作で簡単にアップロードできます。

一度にまとめてアップロードできる画像数は最大200枚(フリーアカウント<無料>使用時)。

## <マイアルバムの作成>

マイアルバムは、活用のための特定テーマの写真のまとめです。

マイアルバムはフォルダに名前を付けて作成します。

### ☆写真の収録方法

アルバムを指定してアップロードして写真を収録できる

「全画像」からドラッグ&ドロップ操作で収録も出来る

アルバムを指定しないと「全画像」に収録される

## <マイアルバムの閲覧と編集>

アルバムの表示方法はグリッドビューとリストビューとシングルビュー

個別写真のコメント等編集はシングルビューの「情報」欄を利用。

## <お知らせメールを送る>

家族や友人にお知らせメールを送り、ウェブアルバムを見てもらう。

☆「共有」をクリックする。

☆送り先のメールアドレスを入力する。

一度に送信できるメールアドレスの上限は100件くらいでしょう。(この欄の文字数限度3000字以内)

☆件名を入力する。

☆本文を入力する。

字数は256字までと限りがあるので、簡潔な文章を入力する。(オーバー字数は入らなくなる)

「本文を入力」欄に、共有案内メールの本文メッセージを入力します(全角／半角、改行、スペースを含めて256文字まで)。

☆無料で利用している場合、送信される写真サイズは圧縮されます。

Lサイズ 1600×1200pixelかMサイズ 1024×768pixelを選択する。

(有料会員は元の大きなサイズのまま送ることが出来ます)

<大人数にウェブアルバムを見てもらう方法>

アルバムを公開設定にして、ウェブアルバムのURL(インターネット上のアドレス)をメールで伝えて見てもらう。

公開設定を一定期間経過後に非公開に変更する等の事後管理が必要です。

<お知らせメールを受けた側>

個別写真でもスライドショーでも見る事が出来ます。

写真はダウンロードをクリックして、パソコンに取り込めます。

ダウンロードは一括ダウンロードされ、圧縮ファイルで保存されます。

圧縮ファイルは簡単に展開出来ます。

\* my Picturetown の写真を見るには、パソコンにAdobe Flash Player がインストールされている必要があります。

<ムービーフォトの作成>

音楽入りスライドショーの作成も容易です。

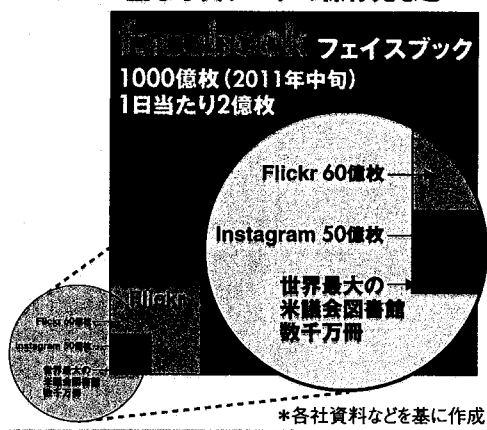
収録写真枚数は無料会員なら20枚まで、有料会員なら200枚まで

<ニコンの写真編集ソフト>

ViewNX 2も無料で使えます。

## 最大はフェイスブック

### 3-7 主な写真データの保存先など



2011年6月、東京に住む会社員の男性は突然送り付けられたメールを見て、パソコンの前で凍り付いた。送り主は米アップル。「モバイル・ミーはご利用いただけなくなりました」

モバイル・ミーは、2000年に始まったインターネット上のストレージ（データ保管）サービス。男性は月額9800円を支払い、写真データの保存などで長年愛用してきたが、急遽、パソコンにデ

# 思い出が消える？

## 写真「保存」問題の袋小路

デジカメの進化、スマートフォンの登場で写真撮影の機会は激増した。今後、さらなるデータ量の増加は確実だが、どんな方法で写真を保存すればいいのか、いまだ最適解は見つかっていない。

データを移し替えることになった。「ネットサービスのリスクを思い知った」と男性は振り返る。

スマートフォンの登場もあり、人々が撮る写真データの量は急増しているが、こ

と「保存」となると環境は整っていない。写真は機種変更後もスマホの中に入ったままか、パソコン買い替えの際にハードディスクに入れて放置したままという人も多い。

デジタル機器は故障が付きまとうだけに、業界では「今後は確実に保存が問題になってくる」（川村亮介・ビットセラ社社長）と口をそろえる。

新しい保存先として最も有望視されているのは、ネット上の「クラウド」を利用したサービスだ。スマホで撮影した写真が自動的に保存され、パソ

## 完璧な方法がない!

### 3-8 主な写真保存方法と長所、弱点

保存方法	長所	弱点
<b>ウェブ保存サービス</b> 	パソコンやスマートフォンなどの機器から、インターネットを通じて簡単に保存することができ、複数の端末から写真も確認できる。	動画など大容量の場合時間がかかる。サービス中止の可能性やセキュリティ面で個人情報流出の可能性もある。
<b>スマートフォンなど端末</b> 	写真データを別の機器に移動させずに、その場で加工したり、共有もできる。アルバムのようにそのまま閲覧して楽しめる。	常に持ち歩いていることから、紛失する可能性がある。機種変更などではデータを移動するのが面倒な場合もある。
<b>CD、SDカードなど記録メディア</b> 	CD、ブルーレイディスクなど光学メディアは低価格。SDはサイズが小さい上に、大容量、低価格が進んで利便性が向上。	光学メディアは、保存、管理を怠ると、劣化して読み取れなくなる可能性がある。SDは動画などを大量撮影すると、容量に限界も。
<b>外付けハードディスク</b> 	細かいデータ整理を気にせず、パソコン1台分など他のメディアより大容量のデータを一気に保存することができる。	他のメディアに比べて、故障の可能性があり、大量データを失う場合もある。データ移動によるフォルダ管理も相対的に面倒。
<b>現像やプリント</b> 	撮影した写真を額縁で飾ったり、好きなサイズで楽しめる。フォトブックや他のグッズに印刷し、「自分の作品」のように仕立てることもできる。	自分でプリントする場合には、プリンタを購入する必要がある。店舗では費用がかかり、端末からデータを出して、発注する手間も残る。

コンやタブレットなど複数端末で確認するなどの使い方ができる。

**す** でにアップルの新「Cloud」やグーグルの「グーグルドライブ」などが登場。フェイスブックも1000億枚の写真を保管するサービスといえる。

ただ、無料が半ば常識のネットの世界にあつて、十分な容量がある保管サービスは有料のことが多い、ネット愛好家は利用しても一般利用者の動きは鈍い。さらに、

冒頭の例のように、サービス中止のリスクも消えず、情報流出などセキュリティへの懸念も残る。

一方、すでに記録メディアとして定着したSDカードは大容量化と低価格化が一気に進み、一昔前のパソコンに匹敵する32ギバイトが2000円程度で買えることもある。

写真愛好家は「SDをファイルのように整理すれば一番便利」という認識で一致するが、最も増えているスマホ利用者からすると、面

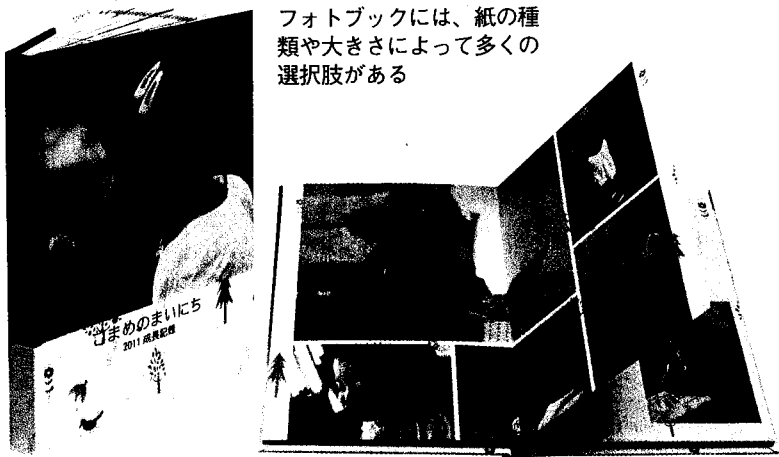
倒なのは確かだ。

## 見直される紙焼き、中国はSNSとの連携も

「やはり写真は紙焼きだ」というフィルム世代の声にも説得力はある。アルバムに収納した場合、ネットやSDカードよりも手に取って見返すことが多く、災害時にも形として残るからだ。事実、セイコーエプソンの調査ではスマホ利用者などの7割が印刷の必要性を感じているという。

「スマホ時代にプリンタは要らな

フォトブックには、紙の種類や大きさによって多くの選択肢がある



いという声もあるが、撮影枚数が増えることで印刷のチャンスも増える」とエプソンの奥村資紀執行役員は話す。同社では外出先で撮った写真をスマホからプリンタに飛ばして印刷するアプリの機能を強化している。

のほか、気に入った写真を本に仕立て上げるフォトブックも、市場がこの5年で5倍の440万台に伸びている。

フォトブックで国内シェア首位の富士フィルムは、写真データから被写体の顔の向きやブレの程度を判断して写真を選別し、フォトブック上に自動的に配置してページを作る独自技術を開発した。利用者が自分で写真を選んでページに当てはめる手間を省く技術だ。

さらに、同社は、現在写真が最も集まるSNSへのアプローチも進めている。中国大手の「人人網」との連携で、利用者がアップした写真を選別し、サイト上で仮想のフォトブックを作成して購入を促す。来年初頭に日本での導入も視野に入れている。

とはいえ、デジカメが「日常」の若い世代は費用のかかるプリンタには手が出にくい。価格、リスク、手間と、多くの問題が残る中、「保存」の悩みを一挙に解決するベストな手段はまだ見つからない。

未曾有の人的、物的被害をもたらした東日本大震災では、自然発生的に自衛隊員やボランティアによる写真やアルバムの回収が行われた。避難所や自治体などには、大量の写真が集まったが、海水に漬かって泥にまみれた写真を、どう扱えばいいのかわからない、という声が多かった。

そこで富士フィルムが始めたのが、「写真救済プロジェクト」である。泥水にぬれた写真は、バクテリアが繁殖し、不鮮明になる。このため同

## 大震災後の洗浄作業でわかった「最近の写真がない」

社の研究部門では、震災の被害に合わせて、海水、泥水などで、60通りの

実験を繰り返し、プリント方式ごとに適切な洗浄方法を探り、結果をウェブサイトに掲載した。また、そのころから増えていった写真洗浄ボランティア向けに洗浄用具を提供し、技術指導を行った。

一方、同社の神奈川県工場足柄サイト(神奈川県南足柄市)には、社員だけでなく、家族やOBも集結し、ボランティアで洗浄を行った。洗浄した写真は実に17万枚にも及ぶ。

膨大な数の写真を洗浄する中、ボランティアに参加した人々が等しく感じたことがある。

「最近の写真がない」

デジカメが急速に普及した2000年以降、写真をプリントして楽しむ人が激減したからだ。プリントした写真は回収されたが、パソコンやCD、メモリなどは、あまり回収されなかった。かろうじて回収されても、写真や他のデータのほとんどが読めなくなっていたという。

写真は残ってこそ価値がある。デジカメ全盛だからこそ、あらためて「残し方」を考える必要があるだろう。

写真には思い出が詰まっている。北は北海道から南は長崎まで、全国でボランティアが立ち上がった

